

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1490400254
法人名	医療法人社団平平會
事業所名	グループホームふあいと山手の丘
訪問調査日	令和4年3月18日
評価確定日	令和4年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490100254	事業の開始年月日	平成29年10月1日	
		指定年月日	平成29年10月1日	
法人名	医療法人 平平會			
事業所名	グループホームふあいと山手の丘			
所在地	(231-1844) 横浜市中区西之谷町86-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和4年3月8日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔は何よりの薬です」の言葉を大切に、入居者様・職員の笑顔が溢れるホームを目指しております。入居者様の好きな事・出来る事を見つけ実現出来るよう職員一同力を入れ支援させて頂いております。「家庭的な雰囲気」を大切に入居者様が遠慮することがなく「我が家」に居られると同じ気持ちで過ごされるよう臨機応変な対応を心掛けております。現在はコロナ禍が継続しており、運動の機会、精神面(不安・寂しさ)への配慮やご家族様へ近況報告、電話での会話、オンライン面会等にも取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年3月18日	評価機関 評価決定日	令和4年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は医療法人社団平平會の経営です。同法人は「株式会社白寿会」と共に、グループ法人として、横浜市、川崎市、鎌倉市内でグループホーム・看護小規模多機能型事業所・訪問介護ステーション・小規模多機能型居宅介護、クリニックを運営し、介護と医療の連携により「認知症や重度化」が進行しても、住み慣れた地域で暮らせるよう、介護と医療面の両方から地域の高齢者を支えるサービスを提供しています。ここ「グループホームふあいと山手の丘」はJR根岸線「石川町駅」から「元町」停留所まで歩き、106系統「本牧車庫行き」のバスで10分程の「千代崎町」停留所下車して徒歩5分程の高台に位置し、周辺環境は閑静な住宅地になっています。

●管理者は事業所内で過ごす時間が多くなったことで、日常のケアの大切さを再認識し、介護未経験・経験者問わず「接遇・尊厳・理念」について重点的に研修を行うとともに、介護技術の基本(食事・入浴・移乗・体位変換)についても改めて確認し、利用者が安心・安全に生活を送っていただけるよう、職員の資質向上に努めています。また、自粛生活が続く中で「身体的・精神・心理的・社会的など」様々な観点からアプローチを行うことで、利用者のフレイル予防に努めています。

●新型コロナウイルス感染症対策に継続して取り組んでおり、法人からの感染症拡大防止のガイドラインに基づいた感染症拡大防止対策を講じるとともに、行政からも情報収集を行いながら、常に最新の動向把握に努め、万が一事業所関係者の中で感染者が発生した時の場合を想定し、各関係機関への連絡網の作成、保健所への必要提供書類などの一連の対応手順マニュアルを作成し、どの職員でも対応できるよう事務所内の目のつく場所で管理しています。また、職員の体調管理、アルコール消毒、1ケア1消毒を徹底し利用者の安全確保に注力して取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふあいと山手の丘
ユニット名	だいち

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識・役割を理解し、法人理念・当ホーム独自の理念に基づき、ご入居様はご自分らしく生き生きと日常を過ごされ、職員も介護職のやりがいに繋がるよう取り組んでいる。	法人の理念「ご利用者様の安心と尊厳ある生活を実現する為に、まごころのこもった態度で、誠意ある快適な環境を提供いたします」に基づき、事業所独自の理念を作成しています。事業所の理念に「①利用者の笑顔を引き出すこと。②好きなこと、出来ることを見つけ、可能な限り実現に向けた支援を行う。」を掲げ、利用者の生きがいを見出すと共に職員のやりがいにつながるよう取り組んでいます。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、新型コロナウイルス感染症の状況下にて地域との交流の機会は持てなかったが、ホーム開設4周年のお祝いの際には近隣へのご挨拶とお祝いお弁当をさせて頂き、通勤時に近隣の方へのご挨拶、近隣のゴミ拾いなど行い地域の一員としての意識を持っている。	新型コロナウイルス蔓延の長期化に伴い、今年度も地域との交流機会(相互に行き来する行事)は持てませんでしたが、昨年10月で事業所開設4周年を迎え、近隣の方々へ挨拶周りを行いました。出退勤時に出会った方への挨拶をはじめ、近隣のゴミ拾い活動を行うなど、職員も地域の一員であるという自覚を持つようにしています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様、新型コロナウイルス感染症の状況下にて「運営推進会議」の開催は書面での活動が中心となり、電話等での交流になりほとんど、発信は出来なかった。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」はホーム経営上、不可欠と思っており、今後も会議を通じて地域交流・サービス向上に活かし、決して閉鎖的にはならず、地域の根づいたホームを目指していきたい。	自治会長・副自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状・活動状況について報告し、参加者から意見や提案を求めています。また、地域の情報などについても情報をいただきながら、サービス向上に生かしています。現在は感染症拡大防止対策のため、書面で事業所の現状や活動報告を行うのみとなっています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の受け入れも多く、中区のケースワーカーが固定され全員を担当されている事から報告・相談などが行いやすく良い関係性が出来ていると思います、コロナ禍ではあるが横浜市、中区主催のオンライン研修には可能な限り参加したいと思えます。	横浜市や中区役所の担当者とは不明点や事業所で判断できない事案が生じた際に連絡を取り、相談や助言を求めています。中区役所の担当者とは運営推進会議の議事録提出や介護保険更新手続きなどで密に連携を図っています。生活保護受給者の受け入れも多く、担当しているケースワーカーも同一人物であることから、利用者の報告・相談は密に行っています。また、横浜市や中区の研修会は現在オンラインで開催されていることから、可能な限り参加したいと考えています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回「身体拘束委員会」を開催し現状など話し合い、対応の検討を行っております。現在4名様は安全を守る為ご家族様の同意を得て人感センサー使用があり、身体的以外で当ホームは言葉による拘束を重視しており、日々のミーティング・社内研修等で理解を深めております。玄関の施錠は市の実地指導に基づき実施中。	身体拘束は年間研修計画にも組み込まれており、年2回は研修テーマとして取り上げ、身体拘束の種類や身体拘束によって起こりうる弊害について理解を深めています。さらに、3ヶ月に1回「身体拘束委員会」を開催し、日々のケアの中で身体拘束に該当する対応や声かけがされていないか振り返り、話し合った内容は全職員に周知することで、身体拘束が見過ごされることのないよう注意を払っています。身体拘束については、日々のミーティングでも話し合う機会を設けるなどして共通認識を図り、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	今後の継続	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、ミーティング等で理解を深めている、日々の関わりで不適切な場面が見受けられた場合、スタッフ間で注意をし合う、適切な対応、イライラ感が起きた時の対処などアドバイスを行っている。	高齢者虐待防止法についても身体拘束と同様に年2回研修を行っており、虐待の種類や対応について事例を用いながら正しい理解と知識を身につけています。ミーティングでも、意見交換を行うなどして職員の共通認識を図り、虐待が見過ごされることのないよう意識づけを行っています。管理者は虐待を未然に防ぐためにも、職員のメンタルヘルスケアにも取り組んでいます。	今後の継続	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識としては薄いが活用に関しては必要な関係各所に相談しながら行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはお客様担当より十分な説明にて理解・納得を行っている、入居後も疑問点があれば、その都度ご説明し解決を行っている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、ご入居様ご家族様とのコミュニケーションを大切に思い、近況報告はもちろん、思い等言いやすい環境を心掛け、ケアプラン作成時にもご要望を伺いサービスへ反映、苦情があればその都度速やかに対応し、金銭については定期的に領収書、明細の提示を行っております。定期的に写真付のお手紙にて近況報告も行っております。	契約時にも重要事項説明書に明記している事業所の苦情受付担当者、外部の苦情相談窓口について説明しています。管理者は家族とのコミュニケーションを大切に、近況報告のみならず、家族の悩みや思いを聞くなどして、意見・要望を表出しやすい関係作りを心がけています。家族からの意見・要望は全職員で共有し、迅速な対応を心がけています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、コミュニケーションを図り、連絡ノート活用、フロア会議開催し意見・提案など協議しケアや業務に反映している、新入職者には面談等も行っている。	職員からの意見や提案については、出勤時をはじめ、業務や休憩時間などにも積極的に職員とコミュニケーションを図ることで忌憚なく意見や提案を表出できる雰囲気作りを心がけています。業務に関する内容についてはフロア会議の議題に上げて、討議した後に業務やケアに反映させています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に査定を行っており、昇給、賞与等に反映されており、季節休暇・有給休暇取得が出来ている。法人で新たな福利厚生に取り組みも始まっている。12月より新たな勤怠システムを導入管理者及び個々の職員も管理、把握がしやすくなっている。	法人では人事考課を導入しており、年2回自己評価を基に管理者と面談を実施し、自己評価及び管理者との面談内容は昇給や賞与に反映されています。管理者は職員の勤務状況を把握しており、希望休や有給取得などを促しながら心身の健康管理に務めるとともに、仕事とプライベートを両立できるよう配慮しながらシフト作成を行っています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より研修担当者が年6回各ホームで研修を実施、各職員の力量、不足部分を考慮し適した研修に参加している。他日々のケアの中トレーニングを行っている。	入職時のオリエンテーションで理念・ケア方針・知識・技術・法令遵守について学び、事業所でも管理者や先輩職員によるOJTにて実際に利用者に関わりながら、利用者の情報や業務の流れについて指導を受けています。年間研修計画に基づいた事業所内研修、経験や勤続年数に応じて様々な外部研修の受講を促しながら、職員の資質向上に努めています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだまだ、スキームは出来ておらず、最近ではリモートによる報告会等に参加しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申込書、健康診断書、初期面談にて、状況把握し不安、要望を組み取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前より環境、背景、要望、不安等を伺い、入居後も話やすい状況をつくり信頼関係を大切に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状態、要望を踏まえサービスを開始、その都度、必要なサービス内容を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご入居様とは家族と同居していると意識を持ち関係を築いている。日々のケアの中で自分の家族だったらと置きかえ良いケアを提供出来るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などできる範囲でお願いし、ご面会時にはご本人だけではなく他入居者様、スタッフも交えての交流を心掛け、ご本人、ご家族、ホームとの絆を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家庭のご都合で不安を持ちご入居されるケースはありますが、ご家族やご友人等との絆を大切に、出来る限りの交流を支援しております。	入居前面談で本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて情報を把握し、入居後も関係性を継続できるよう支援しています。現在は感染症拡大防止のため、面会は中止していますが、社会情勢を考慮しながら面会を再開し、以前のように家族や旧友との交流を支援したいと考えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	要介護度、認知症状に考慮、良い関係が保たれるよう、座席の配慮、職員が積極的に関わり会話、ゲーム、歌等皆様に楽しめる場を提供、互いに協力し支えられる関係を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了されるケースはご逝去が多く、関係性継続は難しいが、時にお花やお手紙をお送りする事もあります、他施設へ移行された方には相談員を通じてご様子の確認を行っております。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本のタイムスケジュールは有るが、職員本位の暮らし方ではなく、自己決定を優先に個々の意向に沿った支援を行い、自己決定が困難な方も二択等を行っている。発語が困難な方は表情等により意向を汲み取るなど努めている。	入居時に本人・家族・介護支援専門員から生活歴・既往歴・趣味・嗜好・暮らし方について聞き取りながらアセスメントシートを作成しています。日々の関わりの中で本人が発した言葉・表情・気づきを記録に残すとともに申し送りでも情報を共有しています。声かけ時にはいくつかの選択肢を提示するなど本人の意思決定を大切にしたい支援を心がけています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援の第一歩として生活、家族歴など入居前の情報収集が大切と思い、アセスメントだけに頼らず、必要があれば、ご家族、利用されていたサービス事業所等にも情報を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能を理解し、好きな事、できる事を見つけ支援に繋げている他に、ご家族からの聴き取りも行い、スタッフ間記録や申し送り等で、日々情報共有を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成前にはご家族、ご本人の要望や必要なサービスを拾い上げ、カンファレンスを実施、プランに反映させ、モニタリングを行っている。変化が有った時には臨機応変に見直しを行い現状に沿った介護計画書を作成している。	入居時のアセスメントで得られた情報をもとに初回の介護計画を作成し、暫くの間は本人の状態把握に努め、随時見直しを行っています。事業所では個別記録に短期目標を予め記載し、全職員が支援内容に沿ったケアを実践できるようにするとともに、日々モニタリングできるようにしています。月1回のケアカンファレンスで、職員の意見や気づき、個別記録を基にケアの課題や問題点を抽出し、現状に即した介護計画の作成につなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録には短期目標を予め記載しどの職員も日々、介護計画書に沿ってケアが出来るよう取り組んでいる、日々の申し送り等でも情報の共有を図りケア見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢の浮腫、腰痛に対し、訪問マッサージを取り入れている。今後ご要望や提案など行いたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、社会資源の活用は行えなかった。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月4回の内科往診があり、日常の健康管理を行っている。専門的な診察が必要時は外部受診を行っているが、出来る限り地域内の同じ病院を利用し良い関係作りを心掛けている。歯科の訪問診療はコロナ禍にて中止をしている。	契約時に提携医療機関について説明し、主治医は本人と家族の希望を尊重しています。法人の提携医から週1回の往診と看護師の巡回が週1回あり、利用者の適切な健康管理が行われています。主治医や看護師とは密に連携をとることで、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。歯科医の受診を受けている方もいますが、現在は感染症拡大防止のため、受診を中止しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の本部所属の看護師巡回があり、連携ファイル活用や職員も同席し日々のご様子を報告、相談し入居者様の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期は入退院者が多くコロナ禍により面会禁止にて、電話での状態確認や院内のカンファレンスに参加するなど医療連携を行い、関係性を大切にしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化された場合のご希望を伺い同意書を頂いております。今期、2名様を終末期ケアを望まれ医療機関と連携しチームでの終末期ケアを行い、ご本人、ご家族も在宅のような環境で最期を迎えられ安心されておられました、研修や日々のカンファにて職員間理解を深めております。	入居時に「重度化した場合における指針」に沿って説明し同意書にサインをいただいています。状態の変化が生じた際に、家族と話し合いの場を設け、今後の方針を共有しながら家族の意向に沿った支援に努めています。今期は2名の方の看取りを行った実績があり、家族・医療機関と連携しながらチームとして終末期ケアに取り組み、穏やかな最期を迎えていただくことができました。今後も、看取り(終末期ケア)のニーズも増えてくることから、研修などを通じてより一層の対応力を身につけていきたいと考えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて救急対応を学んでいるが、実践力には欠けている職員もおります。コロナ禍収束時には消防署の協力も得て指導を受けたいと思っている。急変、事故時に携わった職員に対してはその都度、適切な対応を指導し実践力が身につけてきている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、災害訓練を実施、消火器にての初期対応、消防設備の訓練も行っている。地域との協力体制にはまだまだ欠けている事が今後の課題。備蓄品は期限など定期的に確認している。	夜間の火災想定で、年2回防災訓練を実施しています。消火器の取り扱い訓練、防災設備の操作方法についても確認し有事の際に対応できるよう備えています。新型コロナウイルス蔓延の長期化に伴い、未だ地域との協力体制は十分とまではいっていないので、か課題解決には至っていません。備蓄品は、水、食料、ラジオ、保温シート、衛生用品などを準備し、定期的に点検を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念でもある入居者様の尊厳、プライバシーの確保に対してはなりより細心の配慮を図っております。相応しくない対応時にはその都度、職員間注意し合い、なぜ、相応しくなかったのか振り返りを行っております。	入職時研修や入職後の定期的な研修でも尊厳やプライバシー保護について学んでいます。対応時には、利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。不適切な声かけや対応が見受けられた時には、互いに注意し合うとともに、振り返りを行っております。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	臨機応変に、ご本人の思いを大切にしております。上手く訴えが出来なくても、表情やジェスチャーからも思いを汲み取っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、入居者様のペースや希望に沿い、その方らしい日々の暮らしを送って頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好み、ご家族の意見も取り入れ、ご本人に洋服を選んで頂くなど、選択の機会も大切にしております。季節に沿った衣類、コーディネート、汚れなどにも配慮しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは出来る範囲で入居者様と行い、季節に沿った行事も行い、食を通して季節感や楽しみを感じられるよう支援しております。	食事のメニューや食材は食材配送業者に発注し、職員が調理しています。できる方には盛り付け・食器拭きやお盆拭き、テーブル拭きを手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。時には利用者の希望に応じた食事提供も行っています。季節感を取り入れた食材や食事も提供することで、楽しみを感じられるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の管理栄養士によるメニューを提供しております。個々の咀嚼・嚥下状態に応じた大きさ、柔らかさにも適切に対応しております。水分摂取に対しては進まない方もおり、チェック表を随時確認し好みを取入れた対応や、暑い時期にはOS-1なども提供し熱中症対策としております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。訪問歯科診療時に必要なケア方法を伺い取り入れている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握、トイレでの排泄を支援、失禁の軽減を図り、パット使用の方は適した物を使用し、日々職員間で検討、見直しをしている。出来る限りリハパン等を使用せず、綿の下着に移行を心掛けている。臀部皮膚にトラブルが無いよう保清、保湿を行っている。	利用者全員の排泄表をつけ、一人一人の排泄パターンの把握に努めています。時間やタイミングを見計らった声かけにより、できる限りトイレで排泄を促すことで、排泄の機能的自立を損なわないよう心がけた支援に努めています。可ユニット会議やカンファレンスで適した排泄支援方法を検討し、自立に向けた排泄支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には乳酸菌飲料の提供や運動、マッサージ等も取り入れている。水分量も日々チェックしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は午前入浴であるが、希望に応じて臨機応変に午後も行っている。会話を楽しんだり、季節に応じたお湯でリラックス出来るよう心掛けております。同性介助を希望される方にも柔軟な対応をしております。入浴が出来ない時は清拭、足浴、ドライシャンプーを取り入れている。	入浴は週に2回を基本とし、入浴前のバイタルチェックと本人の意思を確認したうえで無理強いすることなく入浴していただけるよう支援しています。衣服の着脱時には身体チェックを行い、痣や皮膚疾患などの早期発見に努めています。入浴ができない時には、清拭・足浴・ドライシャンプーを取り入れ、清潔保持に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご希望や体調に応じて、夜は習慣に応じた就寝時間にて休んで頂いております。室温、照明、掛物など環境整備に配慮を行っている。眠れない時には無理せず、ホットミルクなど提供し夜のお茶タイムを楽しむ事もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅管理指導を受け、職員も個々の病状、薬の内容、副作用、用法等を理解し服用対応時には服薬マニュアルに沿ってダブルチェックを徹底、誤薬、落薬等防止を図っている。服薬対応はテストを行い指導している。症状に変化がある時には速やかにDr, NS、薬剤師に報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、出来る事を見つけ、介護計画書に取り入れ、張り合いや喜びに活かしている。季節のイベント、お誕生日会等も準備から皆様参加型にて行っており、定期的にリクエストを募り楽しみ事としている。イベント開催後は写真を展示させて頂き喜ばれております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期はコロナ禍にてご家族様との外出自粛やホームでも戸外に出かける機会は持てなかったが、近所までの外出にて気分転換、運動不足の解消としていました。コロナ禍が落ち着いた頃にはドライブ、公園散歩、外食など再開を考えております。	感染症拡大防止のため、家族との外出・事業所で戸外に出かけることは自粛していましたが、事業所周辺を散歩にお連れし、気分転換と下肢筋力の低下防止に努めています。今後の社会情勢を項慮しながらドライブ・公園散歩・外食行事を再開したいと考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭管理はご家族、施設側で行っているが、希望時には買い物同行を行いレジで支払いを行って頂くなど、社会参加を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話、お手紙に加え今期はオンライン面会も可能になり、随時対応しております。最近では携帯電話所持の方も増え、お気軽に使用されております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、清潔感を感じられる環境作りを念頭に室温、照明に考慮し快適な空間を提供しております。音に敏感な方もおられ職員の声のトーン、足音、物音にも細心の注意を払っています。今期はコロナ禍にて除菌、脱臭効果のある「光触媒機」も設置、他は当たり前前の換気、アルコール消毒もしっかり行っております。アロマセラピーの導入もあります。	共用空間は皆が集まって過ごす場所であることから、常に整理整頓を心がけ、室温・湿度・採光なども食委員によって管理され、快適に過ごせる空間作りに努めています。また、物音にも細心の注意を払うことで、不快な思いをされることのないよう留意しています。さらに、除菌・脱臭効果のある「光触媒機」の設置、換気、アルコール消毒も定期的に行い、感染症防止対策も講じています。リラックスできるようにアロマセラピーも導入しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではある程度の座席固定はありますが、その時々でお好きな場所で過ごして頂いてます、1階ではTVの前にソファを設置リラックス出来る空間を作っております。クッション、ひざ掛けの準備もあり横になる方もおります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はご本人やご家族の希望される家具の搬入をお願いしております。馴染みの家具や、お仏壇を設置される方も多くそれぞれに居心地の良く過ごされるよう配慮し、安全性に問題が考えられる場合には相談させて頂き安全策を講じております。	各居室にはエアコン、クローゼットが完備され、入居時には使い慣れた寝具・家具類を持ち込んでいただくよう伝えてあります。持ち込まれている物は人によって様々ですが、ここに使い慣れた家具や思い出の品が持ち込まれ、思い思いに過ごせる居室づくりがされています。認知機能やADLの低下によっては、家族に相談して持ち帰っていただいたり、模様替えを行うこともあります。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、歩行不安定な方でも手すり使用や、手引き歩行にて歩行の機会を大切にしており、車椅子使用や歩行訓練の場でもあり障害がないよう環境整備を行っております。		

目 標 達 成 計 画

事業所
グループホームふあいと山手の丘

作成日 令和4年3月31日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の防災・災害訓練を実施しているが、ここ数年コロナ禍により消防職員の立ち合いの訓練が実施できていない。	消防署員立ち合いにて訓練・指導を受ける。	現在は、管轄消防署長と連絡を取り4月～5月にかけて実施について検討を行っている。	3ヶ月
2	34	ヒヤリハット報告書作成が少ない。	ヒヤリハット報告書作成により、危険性を共有・対策を行うことにより、大きな事故防止を行っていきける個々の気付きを養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙の簡素化を検討、記入しやすいようにする。 ・発生後、検討対策を素早く考え共有・実行していく。 ・一日何枚と目標を定め、危険予知トレーニングを行う。 	6ヶ月
3	48	外での活動を増やす。もっと役割的なことを増やしていきたい。	ご入居者様に聞き取りの結果、お花や野菜を育てたいとのご希望が多く、現状は庭、花壇が無いが、プランター栽培など検討、職員も含め、役割・交流・楽しみごとを増やしていく。	職員間で委員を選抜し、ご入居者様も交え話し合いの場を持ち、オクラ・トマト・枝豆など簡単な野菜栽培から計画する。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームふあいと山手の丘
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識・役割を理解し、法人理念・当ホーム独自の理念に基づき、ご入居様はご自分らしく生き生きと日常を過ごされ、職員も介護職のやりがいに繋がるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、新型コロナウイルス感染症の状況下にて地域との交流の機会は持てなかったが、ホーム開設4周年のお祝いの際には近隣へのご挨拶とお祝いお弁当をさせて頂き、通勤時に近隣の方へのご挨拶、近隣のゴミ拾いなど行い地域の一員としての意識を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様、新型コロナウイルス感染症の状況下にて「運営推進会議」の開催は書面での活動が中心となっており、電話等での交流になりほとんど、発信は出来なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」はホーム経営上、不可欠と思っており、今後も会議を通じて地域交流・サービス向上に活かし、決して閉鎖的にはならず、地域の根づいたホームを目指していきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者の受け入れも多く、中区のケースワーカーが固定され全員を担当されている事から報告・相談などが行いやすく良い関係性が出来ていると思います、コロナ禍ではあるが横浜市、中区主催のオンライン研修には可能な限り参加したいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回「身体拘束委員会」を開催し現状など話し合い、対応の検討を行っております。現在4名様が安全を守る為ご家族様の同意を得て人感センサー使用があり、身体的以外で当ホームは言葉による拘束を重視しており、日々のミーティング・社内研修等で理解を深めております。玄関の施錠は市の実地指導に基づき実施中。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、ミーティング等で理解を深めている、日々の関わりで不適切な場面が見受けられた場合、スタッフ間で注意をし合う、適切な対応、イライラ感が起きた時の対処などアドバイスを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識としては薄いが活用に関しては必要な関係各所に相談しながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはお客様担当より十分な説明にて理解・納得を行っている、入居後も疑問点があれば、その都度ご説明し解決を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、ご入居様ご家族様とのコミュニケーションを大切に思い、近況報告はもちろん、思い等言いやすい環境を心掛け、ケアプラン作成時にもご要望を伺いサービスへ反映、苦情があればその都度速やかに対応し、金銭については定期的に領収書、明細の提示を行っております。定期的に写真付のお手紙にて近況報告も行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、コミュニケーションを図り、連絡ノート活用、フロア会議開催し意見・提案など協議しケアや業務に反映している、新入職者には面談等も行っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に査定を行っており、昇給、賞与等に反映されており、季節休暇・有給休暇取得が出来ている。法人で新たな福利厚生に取り組みも始まっている。12月より新たな勤怠システムを導入管理者及び個々の職員も管理、把握がしやすくなっている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より研修担当者が年6回各ホームで研修を実施、各職員の力量、不足部分を考慮し適した研修に参加している。他日々のケアの中トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	まだまだ、スキームは出来ておらず、最近ではリモートによる報告会等に参加しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申込書、健康診断書、初期面談にて、状況把握し不安、要望を組み取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前より環境、背景、要望、不安等を伺い、入居後も話やすい状況をつくり信頼関係を大切に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状態、要望を踏まえサービスを開始、その都度、必要なサービス内容を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご入居様とは家族と同居していると意識を持ち関係を築いている。日々のケアの中で自分の家族だったらと置きかえ良いケアを提供出来るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などできる範囲でお願いし、ご面会時にはご本人だけではなく他入居者様、スタッフも交えての交流を心掛け、ご本人、ご家族、ホームとの絆を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家庭のご都合で不安を持ちご入居されるケースはありますが、ご家族やご友人等との絆を大切に、出来る限りの交流を支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	要介護度、認知症状に考慮、良い関係が保たれるよう、座席の配慮、職員が積極的に関わり会話、ゲーム、歌等皆様に楽しめる場を提供、互いに協力し支えられる関係を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了されるケースはご逝去が多く、関係性継続は難しいが、時にお花やお手紙をお送りする事もあります、他施設へ移行された方には相談員を通じてご様子の確認を行っております。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本のタイムスケジュールは有るが、職員本位の暮らし方ではなく、自己決定を優先に個々の意向に沿った支援を行い、自己決定が困難な方も二択等を行っている。発語が困難な方は表情等により意向を汲み取るなど努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援の第一歩として生活、家族歴など入居前の情報収集が大切と思い、アセスメントだけに頼らず、必要があれば、ご家族、利用されていたサービス事業所等にも情報を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能を理解し、好きな事、できる事を見つけ支援に繋げている他に、ご家族からの聴き取りも行い、スタッフ間記録や申し送り等で、日々情報共有を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成前にはご家族、ご本人の要望や必要なサービスを拾い上げ、カンファレンスを実施、プランに反映させ、モニタリングを行っている。変化が有った時には臨機応変に見直しを行い現状に沿った介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録には短期目標を予め記載しどの職員も日々、介護計画書に沿ってケアが出来るよう取り組んでいる、日々の申し送り等でも情報の共有を図りケア見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢の浮腫、腰痛に対し、訪問マッサージを取り入れている。今後ご要望や提案など行いたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、社会資源の活用は行えなかった。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月4回の内科往診があり、日常の健康管理を行っている。専門的な診察が必要時は外部受診を行っているが、出来る限り地域内の同じ病院を利用し良い関係作りを心掛けている。歯科の訪問診療はコロナ禍にて中止をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の本部所属の看護師巡回があり、連携ファイル活用や職員も同席し日々のご様子を報告、相談し入居者様の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期は入退院者が多くコロナ禍により面会禁止にて、電話での状態確認や院内のカンファレンスに参加するなど医療連携を行い、関係性を大切にしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化された場合のご希望を伺い同意書を頂いております。今期、2名様が終末期ケアを望まれ医療機関と連携しチームでの終末期ケアを行い、ご本人、ご家族も在宅のような環境で最期を迎えられ安心されておられました、研修や日々のカンファにて職員間理解を深めております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて救急対応を学んでいるが、実践力には欠けている職員もおります。コロナ禍収束時には消防署の協力も得て指導を受けたいと思っている。急変、事故時に携わった職員に対してはその都度、適切な対応を指導し実践力が身につけてきている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災、災害訓練を実施、消火器にての初期対応、消防設備の訓練も行っている。地域との協力体制にはまだまだ欠けている事が今後の課題。備蓄品は期限など定期的に確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念でもある入居者様の尊厳、プライバシーの確保に対してはなりより細心の配慮を図っております。相応しくない対応時にはその都度、職員間注意し合い、なぜ、相応しくなかったのか振り返りを行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	臨機応変に、ご本人の思いを大切にしております。上手く訴えが出来なくても、表情やジェスチャーからも思いを汲み取っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、入居者様のペースや希望に沿い、その方らしい日々の暮らしを送って頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好み、ご家族の意見も取り入れ、ご本人に洋服を選んで頂くなど、選択の機会も大切にしております。季節に沿った衣類、コーディネート、汚れなどにも配慮しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは出来る範囲で入居者様と行い、季節に沿った行事も行い、食を通して季節感や楽しみを感じられるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の管理栄養士によるメニューを提供しております。個々の咀嚼・嚥下状態に応じた大きさ、柔らかさにも適切に対応しております。水分摂取に対しては進まない方もおり、チェック表を随時確認し好みを取入れた対応や、暑い時期にはOS-1なども提供し熱中症対策としております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。訪問歯科診療時に必要なケア方法を伺い取り入れている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握、トイレでの排泄を支援、失禁の軽減を図り、パット使用の方は適した物を使用し、日々職員間で検討、見直しをしている。出来る限りリハパン等を使用せず、綿の下着に移行を心掛けている。臀部皮膚にトラブルが無いよう保清、保湿を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には乳酸菌飲料の提供や運動、マッサージ等も取り入れている。水分量も日々チェックしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は午前入浴であるが、希望に応じて臨機応変に午後も行っている。会話を楽しんだり、季節に応じたお湯でリラックス出来るよう心掛けております。同性介助を希望される方にも柔軟な対応しております。入浴が出来ない時は清拭、足浴、ドライシャンプーを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご希望や体調に応じて、夜は習慣に応じた就寝時間にて休んで頂いております。室温、照明、掛物など環境整備に配慮を行っている。眠れない時には無理せず、ホットミルクなど提供し夜のお茶タイムを楽しむ事もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅管理指導を受け、職員も個々の病状、薬の内容、副作用、用法等を理解し服用対応時には服薬マニュアルに沿ってダブルチェックを徹底、誤薬、落薬等防止を図っている。服薬対応はテストを行い指導している。症状に変化がある時には速やかにDr、NS、薬剤師に報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、出来る事を見つけ、介護計画書に取り入れ、張り合いや喜びに活かしている。季節のイベント、お誕生日会等も準備から皆様参加型にて行っており、定期的にリクエストを募り楽しみ事としている。イベント開催後は写真を展示させて頂き喜ばれております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期はコロナ禍にてご家族様との外出自粛やホームでも戸外に出かける機会は持てなかったが、近所までの外出にて気分転換、運動不足の解消としていました。コロナ禍が落ち着いた頃にはドライブ、公園散歩、外食など再開を考えております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭管理はご家族、施設側で行っているが、希望時には買い物同行を行いレジで支払いを行って頂くなど、社会参加を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話、お手紙に加え今期はオンライン面会も可能になり、随時対応しております。最近では携帯電話所持の方も増え、お気軽に使用されております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、清潔感を感じられる環境作りを念頭に室温、照明に考慮し快適な空間を提供しております。音に敏感な方もおられ職員の声のトーン、足音、物音にも細心の注意を払っています。今期はコロナ禍にて除菌、脱臭効果のある「光触媒機」も設置、他は当たり前前の換気、アルコール消毒もしっかり行っております。アロマテラピーの導入もあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではある程度の座席固定はありますが、その時々でお好きな場所で過ごして頂いてます、1階ではTVの前にソファを設置リラックス出来る空間を作っております。クッション、ひざ掛けの準備もあり横になる方もおります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はご本人やご家族の希望される家具の搬入をお願いしております。馴染みの家具や、お仏壇を設置される方も多くそれぞれに居心地の良く過ごされるよう配慮し、安全性に問題が考えられる場合には相談させて頂き安全策を講じております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、歩行不安定な方でも手すり使用や、手引き歩行にて歩行の機会を大切にしており、車椅子使用や歩行訓練の場でもあり障害がないよう環境整備を行っております。		

目 標 達 成 計 画

事業所
グループホームふあいと山手の丘

作成日 令和4年3月31日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の防災・災害訓練を実施しているが、ここ数年コロナ禍により消防職員の立ち合いの訓練が実施できていない。	消防署員立ち合いにて訓練・指導を受ける。	現在は、管轄消防署長と連絡を取り4月～5月にかけて実施について検討を行っている。	3ヶ月
2	34	ヒヤリハット報告書作成が少ない。	ヒヤリハット報告書作成により、危険性を共有・対策を行うことにより、大きな事故防止を行っていきける個々の気付きを養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙の簡素化を検討、記入しやすいようにする。 ・発生後、検討対策を素早く考え共有・実行していく。 ・一日何枚と目標を定め、危険予知トレーニングを行う。 	6ヶ月
3	48	外での活動を増やす。もっと役割的なことを増やしていきたい。	ご入居者様に聞き取りの結果、お花や野菜を育てたいとのご希望が多く、現状は庭、花壇が無いが、プランター栽培など検討、職員も含め、役割・交流・楽しみごとを増やしていく。	職員間で委員を選抜し、ご入居者様も交え話し合いの場を持ち、オクラ・トマト・枝豆など簡単な野菜栽培から計画する。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。